



自然資本研究会 2025年度 実績報告書

2026年4月30日
ゼロボード総研 自然資本チーム

自然の可能性をビジネスのちからに
自然資本研究会

 Zeroboard

01

自然資本研究会の概要及び2025年度実績

自然資本研究会とその趣旨

自然資本研究会は、自然資本の重要性を理解し、企業のネイチャーポジティブ経営に役立てるための知識や手法を学び、ステークホルダー間の連携を促進する協同学習プラットフォームです。

最新動向の学び

自然資本に関する最新の動向を学び、刻々と変化する環境政策への対応力を向上させます。

企業事例の共有

ケーススタディを通じて、「自然資本への依存と影響」の評価と開示に関する具体的な方法を共有し、実践に活かします。

ネットワーク構築と ビジネス機会創出

企業間の連携と協働活動を促進し、ビジネス機会を創出します。

| 2025年度 自然資本研究会 開催要領

- 開催期間 2025年6月～2026年3月末まで（全6回）
- 開催場所 ハイブリッド開催
- 開催時間 各回14:00～17:00（180分）
- 参加条件
ネイチャーポジティブ社会実現に貢献するため、研究会としての成果を広く発信していくことへのご賛同及び成果報告書への社名・ロゴ記載

2025年度研究会の特長

TNFD提言及び最新の「追加ガイドライン」、「ディスカッションペーパー」に加え、2025年2月にTNFDウェブサイト内に新たに設置された「TNFDトレーナーポータル」の公式教材と演習を設計、提供しました。トレーナーポータルの教材は「責任ある使用ガイドライン」に基づき使用しています。

| TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）とは

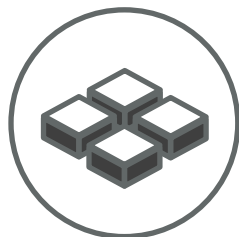
TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）は、企業が「自然関連の課題」を評価・報告し、行動するためのリスク管理および開示フレームワークを開発・提供する、市場主導型かつ科学的根拠に基づいた国際的なイニシアチブです。

TNFDが発表した**TNFD提言**は自然を単なる「CSR企業の社会的責任」の問題としてではなく、気候変動と並ぶ「**中核的かつ戦略的なリスク管理の問題**」として組織の意思決定に自然を組み込むことを促す**開示フレームワーク**です。

TNFD トレーナーポータルとは

TNFD トレーナーポータルで提供される教材はTNFD がケンブリッジ大学サステナビリティリーダーシップ研究所（CISL）と共同開発し、Global Canopy、UNEP FI、WBCSD、CDP、UN SSE、BIOFIN、WWF と連携して、2025年2月から提供している公式のトレーニングコンテンツです。

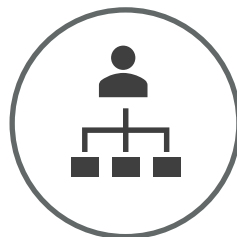
コンテンツは「実践者向け」「シニアリーダー向け」「経営層向け」の3つに分かれ、パワーポイントのスライド、ワークシート、ファシリテーター向けのガイドブックで構成されています。



実践者向け



シニアリーダー向け



経営層向け

演習設計の基本方針

TNFD提言及び追加ガイダンス類の数が多く、ゼロボード総研が独自に資料を作成すると、どうしても解釈のズレが生じるリスクがあるため、トレーナーポータル教材について、ワークシート利用や演習設計の参考資料とすることを基本方針としました。

独自の解釈に偏らない

LEAPアプローチは複雑で、独自解釈を進めると後から修正が必要になります。TNFD提言に関わるグローバルな専門家が制作した公式教材をベースにすることで、独自の解釈に偏らず、参加企業も社内に説明しやすい。

実務のシミュレーション

トレーナーポータル教材には実際の分析を想定したシナリオやワークシートが含まれており、演習で実際に手を動かすことで、サステナビリティ経営の実務経験が浅い担当者でもゼロから手法を考案することなく、自社に戻って取り組める。

日本独自のコンテキストへの最適化

単なる翻訳版の提供ではなく、ゼロボード総研のサステナビリティ経営に関する知見を掛け合わせ、日本企業が直面しやすい課題などを盛り込むことができる。

| 2025年度 自然資本研究会 年間スケジュール

2025年6月12日



第1回研究会

自然資本の概念及び
TNFD提言の理解

7月10日



第2回研究会

演習：
超高速LEAP分析

8月13日



オフィスアワー (個別相談会)

9月10日



第3回研究会

講演：持続可能な調達
演習：TNFD開示事例を読む

10月10日



リトリート研修 自然共生サイト視察

シャトーメルシャン
椀子ヴィンヤード

11月12日



第4回研究会

講演：衛星データ／ランド
スケープアプローチ
演習：機会の特定①

2026年3月11日



成果発表会

全体のまとめと
成果発表

2月18日



第6回研究会

講演：国際NGOと
企業の協働
演習：シナリオ分析

2026年1月7日



第5回研究会

講演：法的留意点／
機関投資家の目線
演習：機会の特定②

12月10日



オフィスアワー (個別相談会)

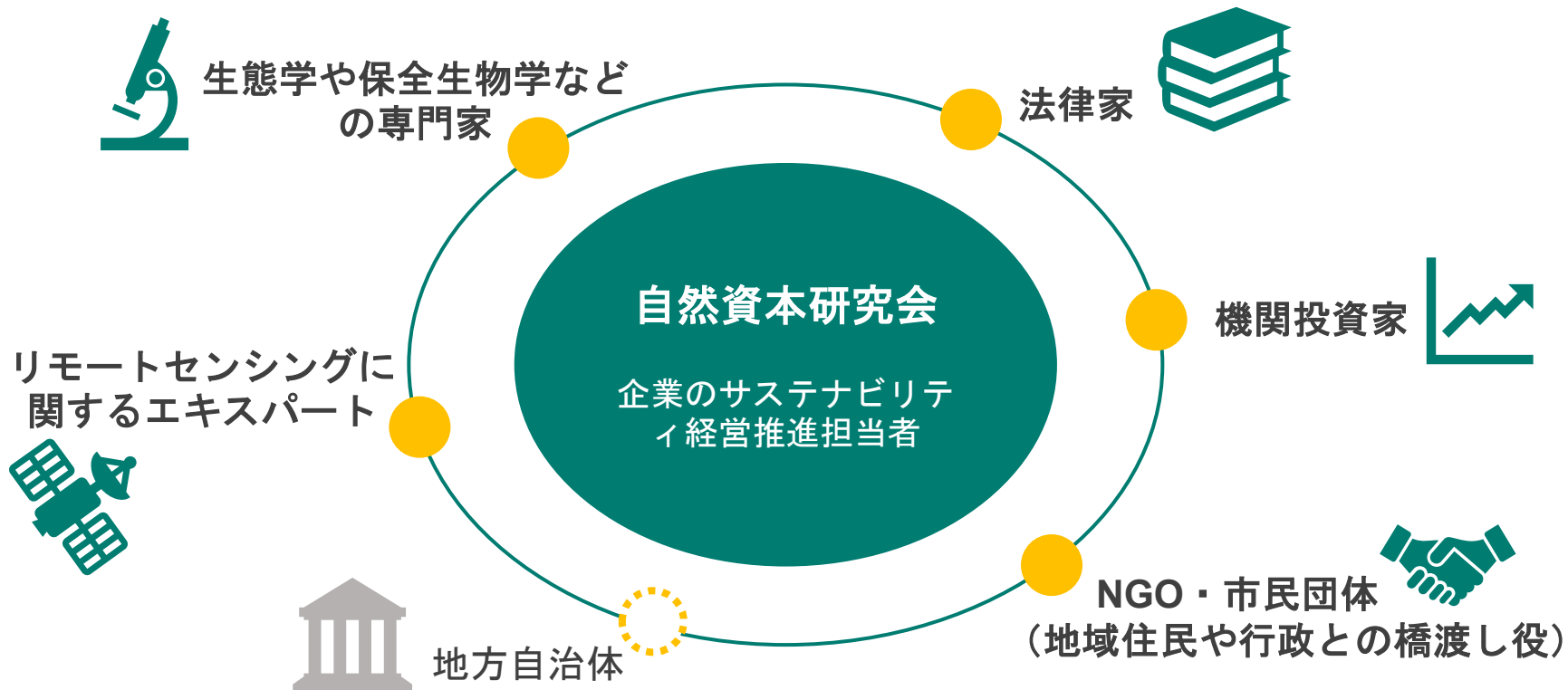
各回の構成

第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回	
30min	自然資本研究会について	30min	ゼロボード総研からの情報提供	45min	有識者レクチャー 「FSC®認証による持続可能な森林資源の利用」	60min	有識者レクチャー 「衛星データ×自然資本開示」	60min	有識者レクチャー 「機関投資家が期待するTNFD開示とは」	60min	有識者レクチャー 「国際NGOと企業との協働：国際コンテキストと現場事例から」
60min	ゼロボード総研レクチャー 「ESG情報開示の潮流とTNFD」	150min	グループワーク 「超高速！LEAPアプローチ」	30min	ゼロボード総研レクチャー 「サプライヤーリスク評価業務のデジタル化」	60min	有識者レクチャー 「生物多様性の定量的評価とランドスケープアプローチ」	60min	有識者レクチャー 「米国の環境法制・訴訟の最新動向から見る法的な留意点」	120min	グループワーク 「シナリオ分析の模擬体験」
60min	グループワーク 「バリューチェーンの特定」 「自然に関する主要な概念や用語」			105min	グループワーク 「TNFDレポートを読む」	60min	グループワーク 「ビジネス機会の特定第1回」	60min	グループワーク 「ビジネス機会の特定第2回」		
30min	ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォーム (群馬県環境森林部)										

有識者による最新動向のレクチャー

日付	回	テーマとタイトル
2025年6月12日	第1回	ESG情報開示の潮流とTNFD
2025年9月10日	第3回	FSC®認証による持続可能な森林資源の利用
		サプライヤーリスク評価業務のデジタル化
2025年11月12日	第4回	衛星データ×自然資本開示
		生物多様性の定量的評価とランドスケープアプローチ
2026年1月7日	第5回	機関投資家が期待するTNFD開示とは
		米国の環境法制・訴訟の最新動向から見る法的な留意点
		国際NGOと企業との協働：国際コンテキストと現場事例から

研究会を通じて築きたいエコシステム



TNFD トレーナーポータル教材の活用状況

日付	回	種別	タイトル	ガイダンス/トレーナーポータル
2025年6月12日	第1回	自己紹介		<ul style="list-style-type: none"> for practitioners M1 "Exploring the implications for your organisation and sector"
		演習	バリューチェーンの特定	<ul style="list-style-type: none"> for practitioners M2 "Consider a hypothetical value chain"
		演習	自然に関する主要な概念や用語	<ul style="list-style-type: none"> for practitioners M4 "Identifying key nature-related concepts and terms"
2025年7月10日	第2回	演習	超高速！LEAPアプローチ スコーピング	<ul style="list-style-type: none"> for practitioners M6 "Small-group exercise: Scope your case study"
2025年9月10日	第3回	演習	TNFDレポートを読む会	<ul style="list-style-type: none"> 利用なし（アクティブ・ブック・ダイアログ方式）
2025年11月12日	第4回	演習	ビジネス機会の特定第1回	<ul style="list-style-type: none"> 自然関連財務情報開示タスクフォースの提言（2023年9月）和訳版
2026年1月7日	第5回	演習	ビジネス機会の特定第2回	<ul style="list-style-type: none"> TNFD提言 追加ガイダンス"Discussion paper on Nature-related opportunities(November 2025)"
2026年2月18日	第6回	演習	シナリオ分析	<ul style="list-style-type: none"> TNFD提言 追加ガイダンス"Guidance on scenario analysis Version 1.0 September 2023" 追加ガイダンス付属資料"The TNFD scenario toolbox" for practitioners M9 "What is scenario analysis?"

02

参加企業によるクロストーク

| 次第

クロストークでは、2025年度自然資本研究会にご参加いただいた企業から6社にご登壇いただき、テーマ1～3について、自由に意見を交わしていただきました。

次第

自社紹介および自然資本研究会に参加した当初の目的

テーマ1 協同学習について

「印象に残ったワークは何か」

「セクターを超えた協同学習の価値はどこにあるか」

テーマ2 体験学習について

「印象に残った参加型調査は何か」

「自然資本を学ぶことでビジネスの見え方はどのように変わったか」

テーマ3 学習効果のまとめ

「自社でどのように実装したいか」

「今後深めたいテーマは何か」

テーマ 1

協同学習について

協同学習（Cooperative Learning）とは

自然資本は、単なる「環境」の問題ではなく、経済、法規制、地域社会、そして未来世代への責任が複雑に絡み合っており、**多様な人と協力して「正解のない問い」に挑む力**が必要とされています。

そこで、自然資本研究会では「協同学習」の概念をプログラムの核に据えました。

協同学習とは「一人で学ぶのではなく、仲間と関わり合いながら、**互いの学びを高め合う学習形態**」のことです。

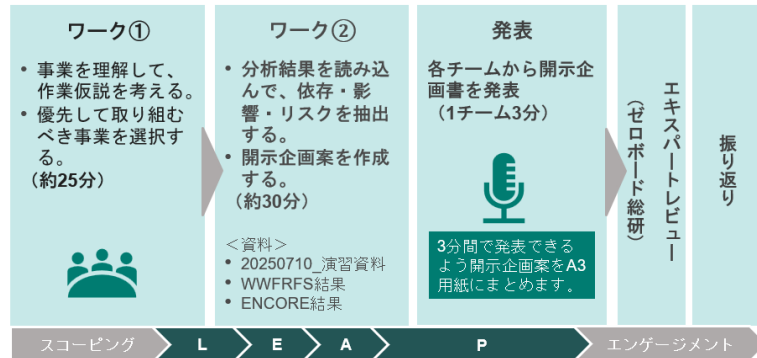
単に「グループで作業する」こと（グループワーク）とは異なり、「自分が理解するだけでなく、メンバー全員が目標を達成することに責任を持つ」という仕組みが組み込まれているのが大きな特徴です。

演習（グループワーク）の内容



第1回 2025年6月12日

- 演習名称：バリューチェーンの特定、自然に関する主要な概念や用語
- 目的：自然関連の重要な概念と用語を理解し、バリューチェーンを特定する
- 参照：TNFD White label education materials for practitioners M4 「Identifying key nature-related concepts and terms」

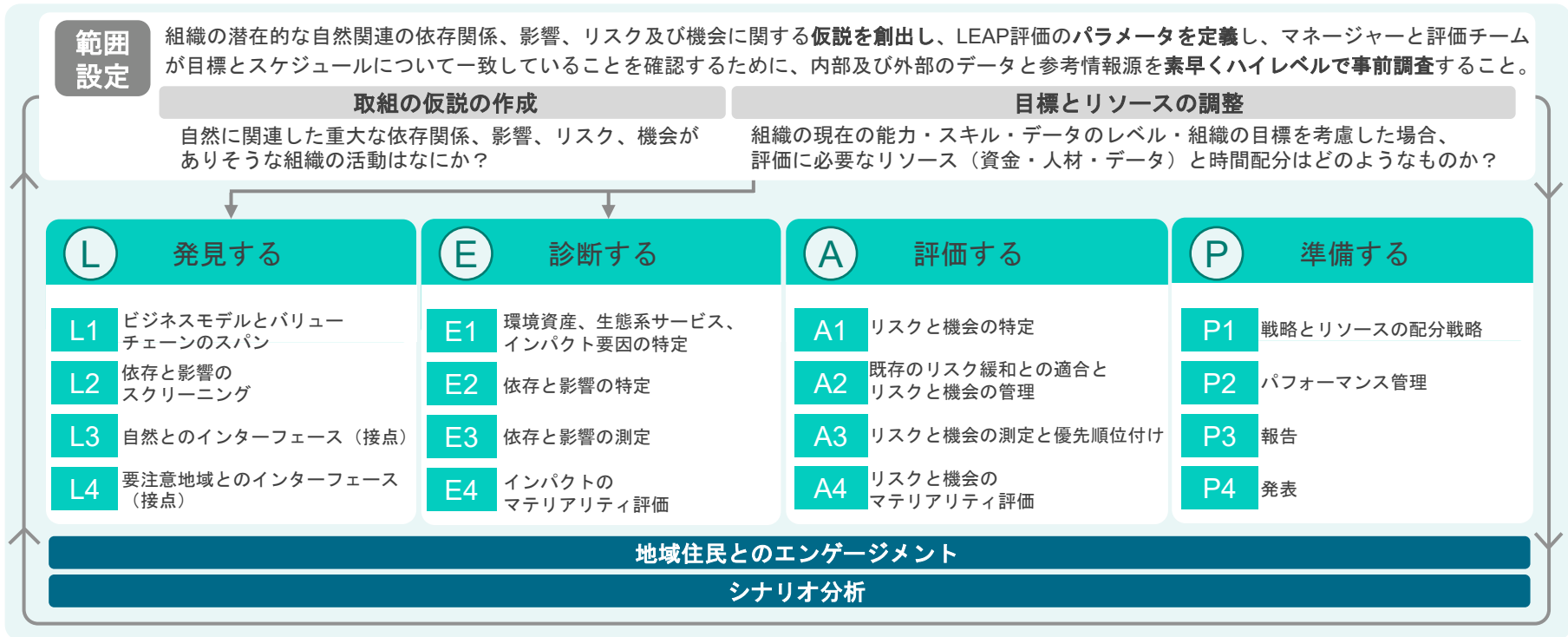


第2回 2025年7月10日

- 演習名称：超高速！LEAPアプローチ
- 目的：モデル企業のリスク分析結果をもとにスコーピングからLEAPを一通り実施し、開示企画案を作成することで、LEAPアプローチの全体像と作業手順を把握する
- 参照：TNFD 「Guidance on the identification and assessment of nature-related Issues The TNFD LEAP approach」にもとづきゼロボード総研が作成したオリジナル・コンテンツ

LEAPアプローチとは

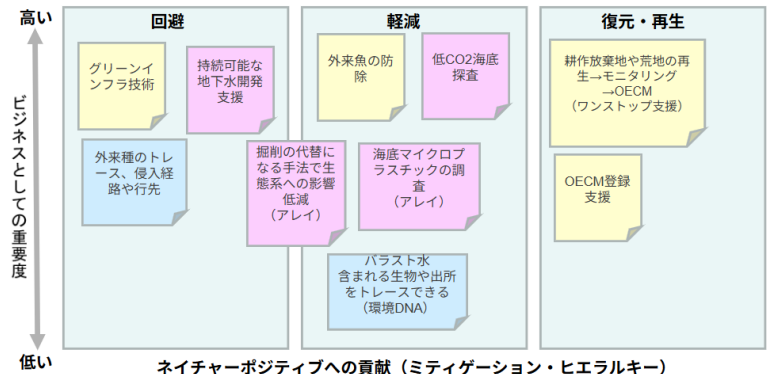
TNFDが推奨している自然資本への依存・影響・リスク・機会を評価するフレームワークです。



超高速LEAP分析疑似体験 (2時間で完了!)



演習（グループワーク）の内容



第3回 2025年7月10日

- 演習名称：TNFDレポートを読む
- 目的：TNFDレポートの先進的な事例について、アクティブ・ブック・ダイアログ方式で読み解き、開示のありかたについて学ぶ
- 参照：ゼロボード総研のオリジナル・コンテンツ

第4回 2025年11月12日

- 演習名称：ビジネス機会の特定 第1回
- 目的：モデル企業を対象にブレイン・ストーミングによるビジネス機会を特定し、ミティゲーション・ヒエラルキーをもとに分類する
- 参照：TNFD「自然関連財務情報開示-タスクフォースの提言」にもとづき、ゼロボード総研が設計

演習（グループワーク）の内容

A

ブレイン・ラインティングのワークシートのイメージ

No.	アイデア	分類	いいね
①	AI活用による森林解析(適正分散)		
②	様々な可能性をく、いろいろなシナリオの創出		♡
③	CO2削減量の特定、クレジットの活用コンサルティング 森林への	ビジネスソリューション	
④	森林、CO2のクレジット、投資商品売買。	ファイナンシャル	

© 2025 Zeroboard Inc.



第5回 2026年1月7日

- 演習名称：ビジネス機会の特定 第2回
- 目的：自然関連の重要な概念と用語を理解し、グループワークバリューチェーンを特定する
- 参照：TNFD「Discussion paper on nature related opportunities」にもとづきゼロボード総研が作成したオリジナル・コンテンツ

第6回 2026年2月18日

- 演習名称：シナリオ分析の模擬体験
- 目的：モデル企業を対象にシナリオ分析のプロセスを把握する
- 参照：TNFD「Guidance on scenario analysis」にもとづきゼロボード総研が作成したオリジナル・コンテンツ

テーマ 2

体験学習について

体験学習とは

言葉だけでは捉えきれない「自然資本」の本質は、現場にこそ眠っています。実際の商品に触れ、土の感触を確かめる。森の空気を吸い込み、水のせせらぎを肌で感じる。こうした五感を通じた体験こそが、自然資本や生態系サービスを理解・納得することにつながります。

2025年度研究会では、現場に埋もれている経験や知恵を参加者で共有することを目的に「参加型調査」と「エクスカージョン」を取り入れました。

- 「参加型調査」とはプロの科学者や技術者だけでなく、一般の市民がデータの収集、観察などの調査・研究プロセスに参加する活動のことです。
- 「エクスカージョン（Excursion）」とは現地ガイドの解説を通じて、地域の自然・文化・産業とのつながりを立体的に学ぶ体験のことです。

参加型調査・体験型演習

身近なFSCマーク調査



写真撮影：調査協力者

身近な植物調査



自然共生サイト視察



参加型調査の意義

専門調査への貢献（専門調査の補完・強化）

点から面のデータへ拡張

大勢の参加者が同時多発的かつ継続的に記録することで膨大なサンプル数を確保できる。

データの信頼性の底上げ

現場で「実際に何が起きているか」記録することで、分析モデルの正しさを検証し、データの信頼性を底上げする。

実効性の高い政策立案

その場所が持つ歴史など、数値化しにくい現場の文脈を抽出し、提供することで、実効性の高い政策立案が可能になる。

ネイチャーポジティブに関する社内教育ツールとしての効果

社員の行動変容

調査を通じて「自然資本が身近にある」ことを実感でき、購買行動や日常業務での選択といった個人の行動にポジティブな影響を与える。

主体的な学びが深まる

自分の目で「探す」「記録する」ことで記憶に残りやすい、主体的で継続的な学びの動機付けになる。

エンゲージメントの向上

「自分の発見が全体の成果につながる」と感じられ、職場、コミュニティの一体感や達成感を高める。

テーマ 3

学習効果のまとめ

アンケート調査の概要

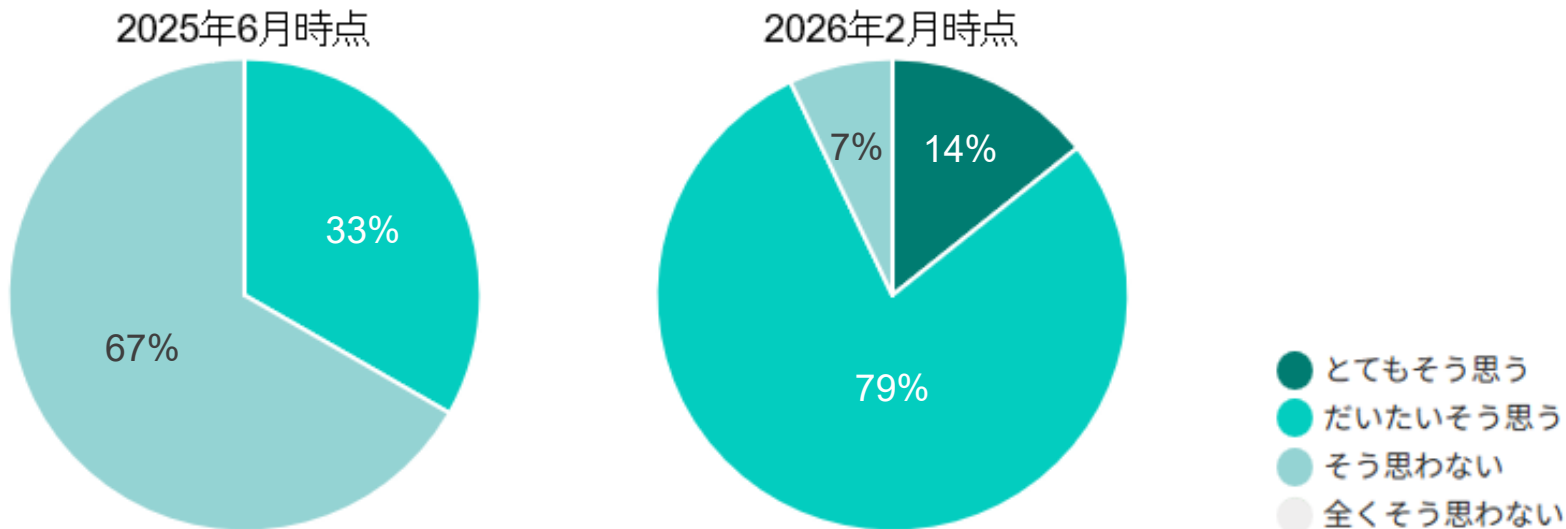
- 対象者 : 2025年自然資本研究会参加者19名
- 実施時期 :
 - 第1回調査 : 2025年6月12日～6月17日 自然資本研究会 第1回会合終了時
 - 第2回調査 : 2026年2月18日～2月25日 自然資本研究会 第6回会合終了時
- 回答方法 : Googleフォームを利用した質問紙調査（匿名、任意）
- 調査項目 : 別紙参照、12問
- 分析手法 : 各質問の回答について、「全くそう思わない（1点）」～「とてもそう思う（4点）」で点数化し、t検定による有意差を分析した。

事前事後アンケートの結果

黄色に塗られた2つの質問で、有意差（t検定、 $p < 0.05$ ）が出ました。自然資本研究会前後のアンケート結果の差が偶然によるものではなく、明確な学習効果が見られたと言えます。

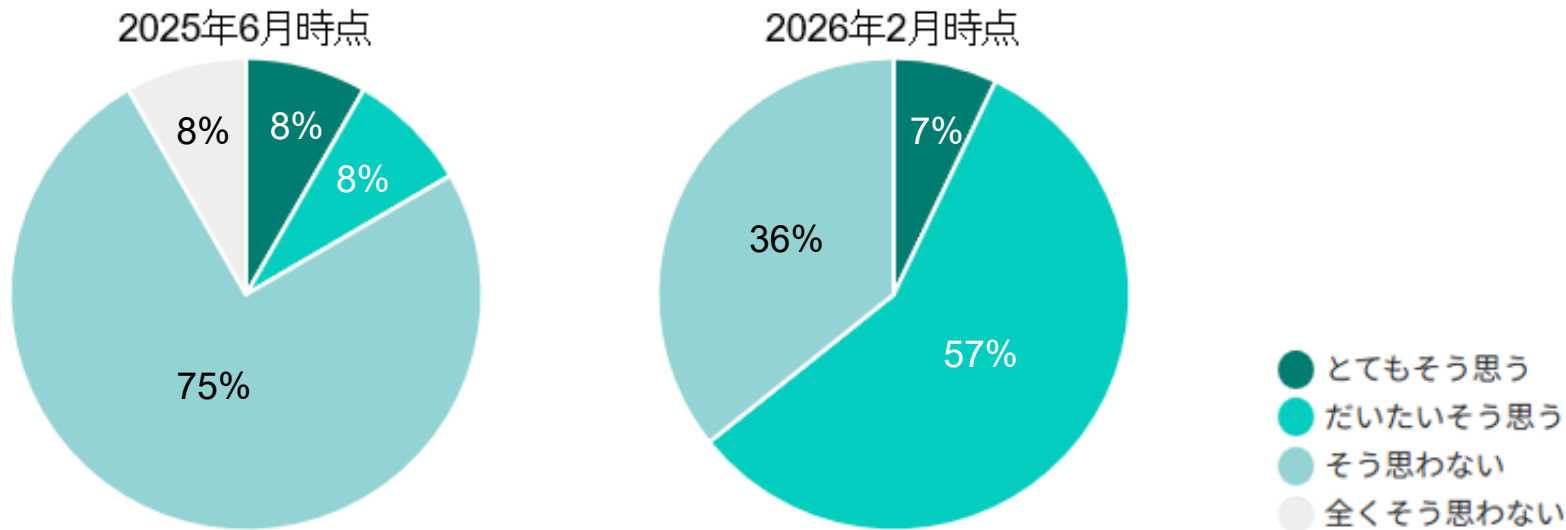
質問	事前平均	事後平均	差異
Q1 私は、生物多様性の回復に寄与したい	3.750	3.857	0.107
Q2 企業は、生物多様性の損失に責任がある	3.750	3.714	-0.036
Q3 生物多様性は喫緊の問題なので、企業はすぐにでも取り組む必要がある	3.500	3.571	0.071
Q4 自社の自然資本への取り組みが生物多様性の回復にポジティブな効果を与える	3.083	3.143	0.060
Q5 自然資本への取り組みが自社の事業継続性にポジティブな効果を与える	3.250	3.500	0.250
Q6 私は、自然資本や自然関連トレンドについて自主的に情報を収集している	3.083	3.286	0.202
Q7 私は、社内会議等で自然関連トレンドの話題を提起している	2.667	2.929	0.262
Q8 私は、企業の依存・影響が、自然の状態の変化や生態系サービスの変化を通じて企業の機会・リスクに影響することについて説明ができる	2.333	3.071	0.738
Q9 私は、生物多様性の損失を防ぐ方法、回復させる方法を知っている	2.167	2.714	0.548
Q10 自社は、自然関連の戦略を立てて、予算を確保している	1.917	2.071	0.155
Q11 自社は、自然関連の依存・影響の分析への行動を起こしている	2.333	2.643	0.310
Q12 自社は、自然関連リスク・機会の評価への行動を起こしている	2.000	2.429	0.429

私は、企業の依存・影響が、自然の状態の変化や生態系サービスの変化を通じて企業の機会・リスクに影響することについて説明ができる



ゼロボード総研の考察：自然資本や生態系サービスなどの抽象的概念が腑に落ち、「自分の言葉で説明ができる」レベルへと自然資本への取り組みに関する実装力が強化された。

私は、生物多様性の損失を防ぐ方法、回復させる方法を知っている



考察：有識者からのインプットだけでなく、自然共生サイトの視察や参加型調査を通じて具体的な「損失を防ぐ方法」「回復させる方法」への解像度が上がった。

自然資本研究会 2025年度成果発表会

株式会社ゼロボード

ゼロボード総研（自然資本チーム）

東京都港区三田3-5-27住友不動産東京三田サウスタワー10階

問い合わせ先 zb_Nature@zeroboard.jp

当該資料の著作権は、特別の断り書きがない限り株式会社ゼロボードに帰属しており、無断での複製や転載、転用、改変等の二次利用は固くお断りいたします。